



お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？



宜野湾市はじめての選挙

今から60年前の1962（昭和37）年7月1日、宜野湾村が市制を施行して「宜野湾市」となりました。その年の9月には、宜野湾市として初めてとなる選挙が行われていたことをご存知でしょうか？

当時の選挙は、1947（昭和22）年に軍政府が沖縄民政府に対して市町村会議員の選挙法立案を指示し、1948（昭和23）年2月以降からは日本の選挙法を参考にした「市町村議会議員及び市町村長選挙法」に基づいて市町村長及び市町村議員の選挙が行われるようになりました。宜野湾市でも、この法律に則って選挙が行われたのですが、当時は投票場所が市役所のほか大山小・嘉数小・宜野湾小の各小学校と普天間公民館の5カ所のみで、投票時間も午前7時から午後6時と今より短い時間帯となっていました。また、開票についても投票日の翌日に行われ、選挙結果が出るまで時間が掛かりま

した。現在では、投票所が16カ所に設けられたことに加え、期日前投票も大型スーパリーなどで行えるようになり、さらには即日開票により、早ければ当日で結果が報道されるようになりました。

このほかにも、60年前と現在の選挙事情は大きく変わりました。それは、社会背景の変化により、その時々状況に応じて法律や規則が改正され、現在の制度になったためです。宜野湾市では人口の増加により、投票所が増設されるなど、当時と比べると選挙に行きやすくなってきています。

【問い合わせ】

市立博物館 ☎870-19317



▲1962年に行われた選挙の開票作業のようす。
窓の外が明るく、日中に開票をしていたことが分かります。

ぎのわんの 歴史・文化遺産

野嵩石畳道の発掘調査

みなさんは市指定史跡「野嵩石畳道」をご存じでしょうか？この古道は、琉球王国時代の公道（宿道）で、現在でも県道29号から普天間川へ下りる部分に石畳が状態良く残されていますが、実際は左図のように（赤い部分）、野嵩の旧集落東端辺りまで石畳が続いていました。しかし、この部分は急斜面となっており、石畳があった里道は土砂に埋もれてその面影はありません。



そこで令和元年度に、2×3mの小規模な範囲を4ヶ所掘削し、石畳が残っているかを確認するための調査を行っています。そして、このうちの2ヶ所から、石畳の一部が見つかりました。

地元の先輩方からの聞き取りでは、その多くが壊れていると思われていたものが、令和元年度の調査成果から、石畳がある程度残っている可能性が確認されたのです。

そこで今年度は、さらに広い範囲を掘削し、この石畳がどの程度残っているかを確認するための調査を行います。

野嵩石畳道は、戦前ジノーンナンマチ（宜野湾並松）と呼ばれた普天間参詣道から分岐し、東回りの宿道へ下りる交通の要所（ようじょう）にありました。果たして、この石畳はどの程度残っているのでしょうか？

【問い合わせ】

文化課 ☎893-14430



▲令和元年度に確認された石畳の一部
石畳は一部抜き取られているため、間隔が空いているようです。